

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Paget's disease of the vulva: pathology, pattern of involvement, and prognosis</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	P C Q 13-5	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I V )	
	Pubmed ID	10739709	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gynecol Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	77	
	号	1	
	ページ	183-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Parker LP	MD アンダーソン癌センター
	その他著者 1	Parker JR	同上
	その他著者 2	Bodurka-Bevers D	同上
	その他著者 3	Deavers M	同上
	その他著者 4	Bevers MW	同上
	その他著者 5	Shen-Gunther J	Baylor College of Medicine
	その他著者 6	Gershenson DM	MD アンダーソン癌センター
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	会陰部 paget 病の病理像、浸潤形式、予後を明らかにする。		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	MD アンダーソン癌センター		
	対象者	会陰部原発 Paget 病 76 例 非浸潤性(46 例)、浸潤性(9)、非浸潤性+深部に腺癌(13)、非浸潤性+癌の合併(13) 部位：一側 labium(47%)、両側(27)、肛門周囲(19)、クリトリス(7)		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
	介入 (要因曝露)	手術：局所切除(20 例)、vulvectomy(46) 放射線療法：4 例、化学療法：1 例、5FU クリーム：1 例、無治療：2 例		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		3	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	主な結果	浸潤性、非浸潤性+深部に腺癌、非浸潤性+癌の合併の予後は非浸潤性に比べ生命予後が不良。化学療法、放射線療法を受けた症例は予後不良。局所切除を受けた症例は根治的な広範囲切除を受けた症例に比べ生命予後が良好。局所切除は局所再発率が高い。		
	結論	浸潤性、非浸潤性+深部に腺癌、非浸潤性+癌の合併の予後は非浸潤性に比べ生命予後が不良。局所切除は局所再発率が高い。		
	備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人		

	レビューワーコメント	より積極的な治療を行わなければならなかった症例が予後不良であるのは当然であり、化学療法、放射線療法を受けた症例の生命予後が不良であるなどの不適切な解釈が散見される。 レベル I V
--	------------	---